

瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の管理状況(2017.8.31 時点)

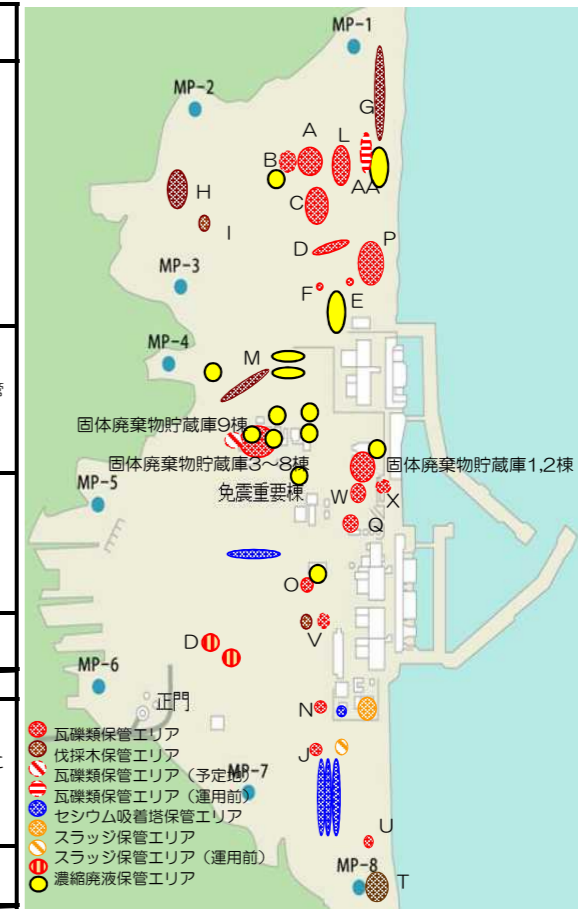
分類	保管場所	保管方法	エリア境界 空間線量率 (mSv/h)	保管量	前回報告比 (2017.8.31)	変動理由	エリア 占有率	保管量 ^{※3} / 保管容量 (割合)	トピックス	
瓦礫類	屋外集積 (0.1mSv/h以下)	B	屋外集積	0.01	2,800 m ³	0 m ³	—	85 %	156700 / 214300 (73%)	・フランジタンク解体片 エリアP1にて一時保管中。(2015年6月15日~) 2017年8月末時点で471基(コンテナ)保管。
		C	屋外集積	0.01未満	57,800 m ³	+800 m ³	①②③	91 %		
		F2	屋外集積	0.01未満	6,400 m ³	0 m ³	—	85 %		
		J	屋外集積	0.01	4,300 m ³	0 m ³	—	53 %		
		N	屋外集積	0.01未満	4,500 m ³	0 m ³	—	45 %		
		O	屋外集積	0.01未満	34,000 m ³	+1,200 m ³	①②③④	66 %		
		P1	屋外集積	0.01	45,100 m ³	+1,100 m ³	①	70 %		
	U	屋外集積	0.01未満	0 m ³	0 m ³	—	0 %			
	V	屋外集積	0.01	2,000 m ³	+200 m ³	④	33 %			
	シート養生 (0.1~1mSv/h)	D	シート養生	0.01未満	2,600 m ³	0 m ³	—	58 %	27000 / 71000 (38%)	・エリアWは、車両解体(プレス等)及びエリア内配置整理により保管 量減。
E1		シート養生	0.03	12,900 m ³	微増 m ³	—	81 %			
P2		シート養生	0.01	5,500 m ³	0 m ³	—	62 %			
W		シート養生	0.05	3,700 m ³	-600 m ³	②	13 %			
覆土式一時保管施設、 仮設保管設備、容器 (1~30mSv/h)	L	覆土式一時保管施設	0.01未満	12,000 m ³	0 m ³	—	100 %	21400 / 27700 (77%)	・主な瓦礫類は、1~3号機工事等で発生した瓦礫類。	
	A	仮設保管設備	0.25	2,700 m ³	微増 m ³	—	38 %			
	E2	容器 ^{※4}	0.02	300 m ³	0 m ³	—	19 %			
	F1	容器	0.01未満	600 m ³	0 m ³	—	99 %			
Q	容器	0.09	5,700 m ³	0 m ³	—	93 %				
固体廃棄物貯蔵庫	固体廃棄物 貯蔵庫	容器 ^{※4}	0.02	8,900 m ³	+100 m ³	③⑤	74 %	8900 / 12000 (74%)	・主な瓦礫類は、1~3号機工事等で発生した瓦礫類。	
合計(ガレキ)				214,000 m ³	+2,900 m ³	—	66 %			
伐採木	屋外集積 (幹・根・枝・葉)	G	屋外集積	0.01未満	25,100 m ³	微増 m ³	—	63 %	96300 / 144500 (67%)	・エリアGは、敷地造成工事関連で発生した伐採木(幹・根)の受入に より保管量増。
		I	屋外集積	-	0 m ³	0 m ³	—	0 %		
		H	屋外集積	0.01未満	31,700 m ³	0 m ³	—	74 %		
		M	屋外集積	0.01未満	39,500 m ³	微増 m ³	—	88 %		
	V	屋外集積	0.01	0 m ³	微増 m ³	—	0 %			
	一時保管槽 (枝・葉)	G	伐採木一時保管槽	0.01未満	13,000 m ³	0 m ³	—	44 %	24100 / 41600 (58%)	
T		伐採木一時保管槽	0.01未満	11,100 m ³	0 m ³	—	94 %			
合計(伐採木)				120,400 m ³	0 m ³	—	65 %			
保護衣	屋外集積	容器	0.03	64,300 m ³	-2,100 m ³	⑥⑦	90 %	64300 / 71200 (90%)	・使用済保護衣等焼却量 2156t(2017年8月末累積) ・焼却灰のドラム缶数 400本(2017年8月末累積)	
合計(使用済保護衣等)				64,300 m ³	-2,100 m ³	—	90 %			
仮設	瓦礫類	U(仮設分)	屋外集積	0.01未満	700 m ³	0 m ³	—		・タンク設置スペース確保に伴い、エリアUより持込み。	
合計(仮設運用エリア)				700 m ³	0 m ³	—				

※1 100m³未満を端数処理しており、微増・微減とは100m³未満の増減を示す。
 ※2 主な変動理由：①タンク関連設置工事 ②車両解体工事 ③1~4号建屋周辺瓦礫撤去関連工事 ④焼却対象物の受入
 ⑤水処理二次廃棄物(小型フィルタ等)の保管 ⑥焼却運転 ⑦使用済保護衣等の受入

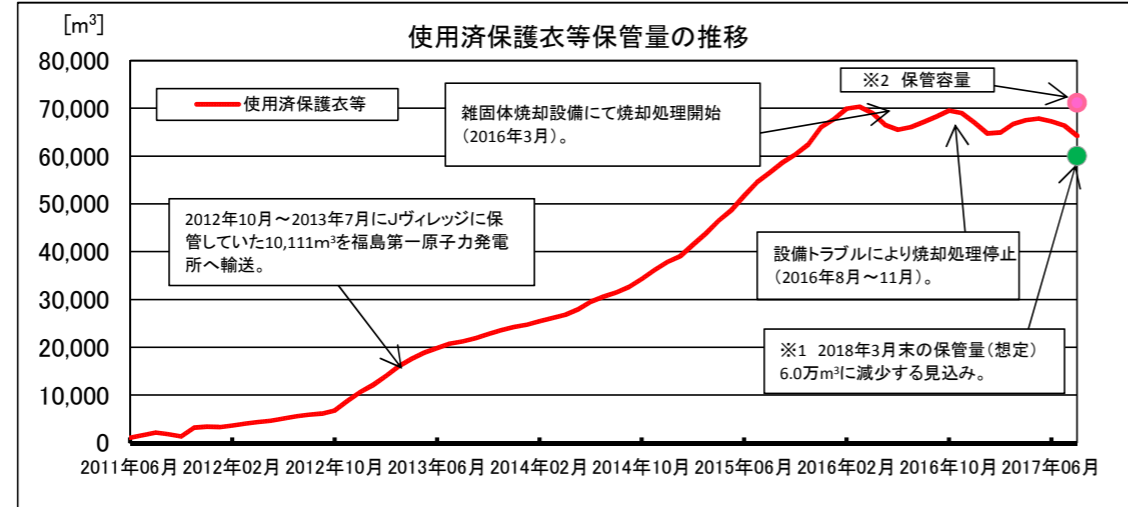
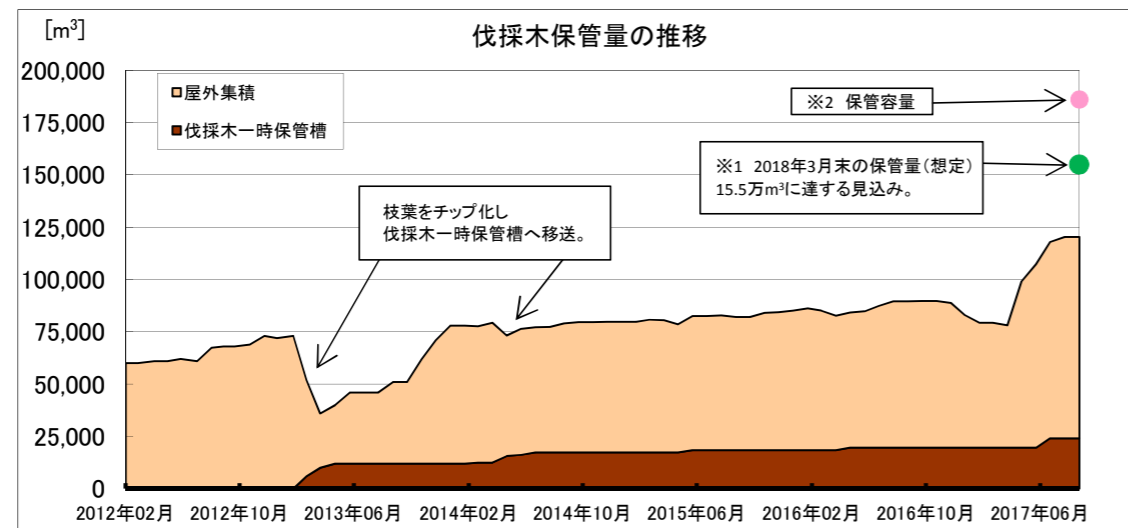
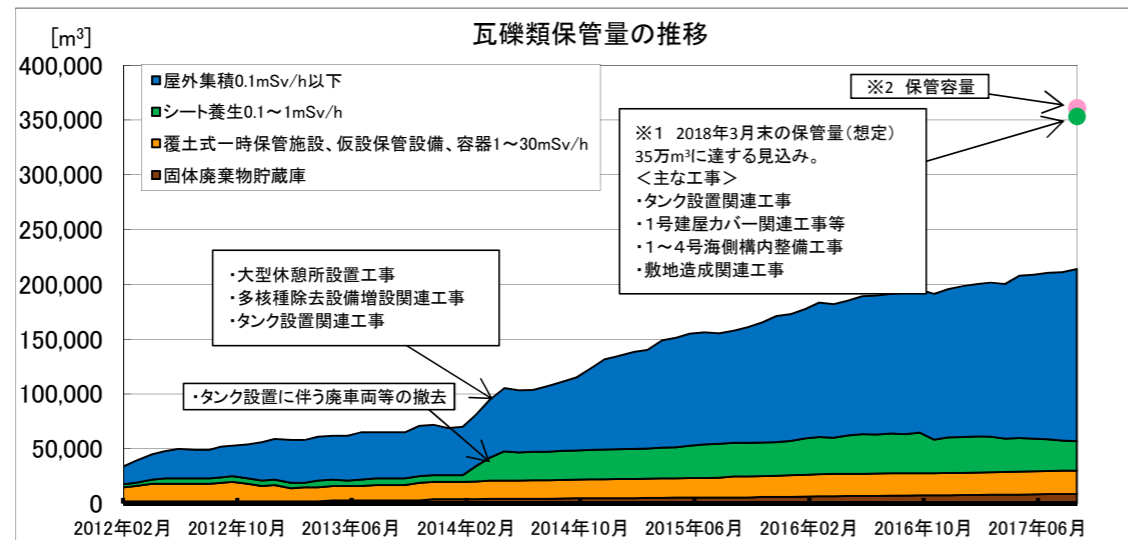
※3 端数処理で100m³未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。
 ※4 水処理二次廃棄物(小型フィルタ等)を含む。

水処理二次廃棄物の管理状況(2017.9.21時点)

分類	保管場所	種類	保管量	前回報告比 (2017.8.31)	保管量/保管容量 (割合)	トピックス
水処理 二次 廃棄物	使用済吸着塔 保管施設	セシウム吸着装置使用済バケツ	758 本	0 本	3775 / 6368 (59%)	・吸着塔一時保管施設の増容量が認可(2015年12月14日) ・使用前検査完了(2017年5月26日)に伴う保管容量増(第四施設架台129塔分)
		第二セシウム吸着装置使用済バケツ	190 本	0 本		
		多核種除去設備等保管容器	1,435 基	+12 基		
		高性能多核種除去設備使用済バケツ	73 本	0 本		
		多核種除去設備処理カラム	9 塔	0 塔		
		モバイル式処理装置等使用済バケツ及びフィルタ類	194 本	+1 本		
廃スラッジ 貯蔵施設	廃スラッジ	597 m ³	0 m ³	597 / 700 (85%)	・除染装置の運転計画は無く、新たに廃棄物が増える見込みは無い。 ・準備が整い次第、除染装置の廃止について実施計画の変更申請を行う。	
濃縮廃液タンク	濃縮廃液	9,387 m ³	-11 m ³	9387 / 10700 (88%)	・タンク水位の変動は、計器精度±1%の誤差範囲内。(現場パトロール異常なし) ・水位計0%以上の保管量: 9287 [m] タンク底部~水位計の保管量(OS): 約100[m]	



瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の管理状況(2017.8.31 時点)



※1 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の保管量(想定)は、実施計画(2017年3月1日認可)の予測値を示す。
 ※2 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の保管容量は、実施計画(2017年3月1日認可)の保管容量の運用上の上限を示す。

水処理二次廃棄物の管理状況(2017.9.21時点)

